

平成21年度決算

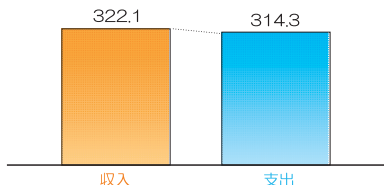
→ 上下水道局のお財布事情をご紹介します 

→ 水道事業

水道事業は、市民生活や都市・産業活動に欠かせない基幹施設として、いつでも安全で良質な水を安定的に供給し、また漏水や災害時にも対応できる水道施設を構築するため、施設の維持管理、整備、改良を行うための多くの費用がかかっています。一方、人口の増加があるものの、節水型社会への変化などから水道料金などの収入は微減傾向にあります。

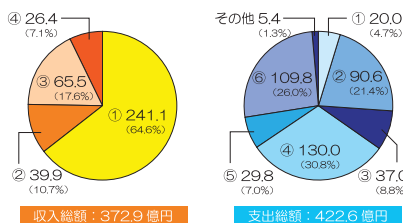
平成 21 年度決算は、効率的な職員配置などの**行財政改革などによる経費削減を推進したことにより、当期純利益が 7.8 億円生じましたが**、今後施設の老朽化に伴う施設の整備・改良のための費用が増大することから、一層の経営の効率化を推進します。

▶ 経営活動に伴い発生する収入と支出 (税抜き額 / 単位: 億円)



▶▶ 収入 322.1 億円 - 支出 314.3 億円 = 当期純利益 7.8 億円

▶ 水道事業における収入総額と支出総額 (税込み額 / 単位: 億円)



- 収入**
- ① 水道料金
 - ② 東京都からの分水負担金や下水道徴収費繰入金など
 - ③ 災害対策事業に対する補助金など
 - ④ 水道施設の整備・改良のための借入金

- 支出**
- ① 水源から浄水場まで原水を選ぶ費用
 - ② 神奈川県内広域水道企業団からの受水にかかる費用
 - ③ 原水を水道水にするため浄水場にかかる費用
 - ④ 水道水を浄水場からお客さままで配る費用
 - ⑤ メーター検針、料金徴収などの営業に関する費用
 - ⑥ 水道施設の整備・改良のための費用

▶▶ 収入 372.9 億円 - 支出 422.6 億円 = 差引 △49.7 億円

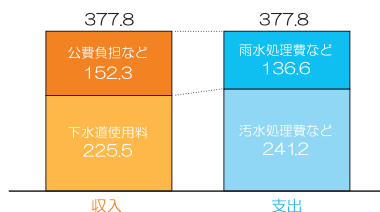
収支不足額については、過年度分損益勘定留保資金等で対応しました。

→ 下水道事業

下水道事業は、都市基盤施設としての下水道機能の維持向上を図るための維持管理と更新、建設整備を行う一方、事業運営の効率化に努めてきましたが、過去の建設投資の影響により、いまだ企業債残高が高い水準にあるなど、依然として厳しい財政状況となっています。

平成 21 年度決算は、**下水道使用料の減収などに伴い、一般会計からの繰入により収支の均衡を図りました**。経営の早期自立に向け、より一層の経営の効率化を推進します。

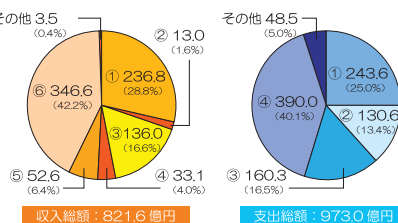
▶ 下水処理の費用負担のしくみ (税抜き額 / 単位: 億円)



【雨水公費・汚水私費の原則】

下水道施設などを管理する費用には、使った汚れた水をきれいに浄化する**汚水処理費**と、ご自宅や道路などに降った雨水をすみやかに排除する**雨水処理 (浸水対策) 費**があります。受益者負担の考えから、汚水処理費は**下水道使用料 (私費)**で、雨水の排除は**税金 (公費)**で負担するしくみとなっています。

▶ 下水道事業における収入総額と支出総額 (税込み額 / 単位: 億円)



- 収入**
- ① 下水道使用料
 - ② 汚水にかかる一般会計負担金など (福祉施設に対する減免等)
 - ③ 雨水処理等にかかる一般会計負担金など
 - ④ 下水道施設の整備や元金償還にかかる一般会計出資金など
 - ⑤ 下水道施設の整備にかかる国庫補助金
 - ⑥ 下水道施設の整備および企業債の償還にかかる借入金

- 支出**
- ① 汚水処理にかかる費用
 - ② 雨水の排除などにかかる費用
 - ③ 下水道施設の整備・更新のための費用
 - ④ 施設整備などのため借入れた企業債の元金償還金

▶▶ 収入 821.6 億円 - 支出 973.0 億円 = 差引 △151.4 億円

収支不足額については、当年度分損益勘定留保資金等で対応しました。